令和7年第1回防府市議会定例会会議録（その4）

○令和7年3月5日（水曜日）

○議事日程

令和7年3月5日（水曜日） 午前10時 開議

- 1 開 議
 - 2 会議録署名議員の指名
 - 3 一般質問
-

○本日の会議に付した事件

目次に記載したとおり

○出席議員（25名）

1 番	藤 村 こずえ 君	2 番	中 谷 哲 君
3 番	上 野 忠 彦 君	4 番	原 田 典 子 君
5 番	藤 本 真 未 君	6 番	松 村 学 君
7 番	田 中 健 次 君	8 番	石 田 卓 成 君
9 番	宮 元 照 美 君	10 番	河 村 孝 君
11 番	梅 本 洋 平 君	12 番	上 田 和 夫 君
13 番	曾 我 好 則 君	14 番	宇多村 史 朗 君
15 番	生 野 美 輪 君	16 番	山 田 耕 治 君
17 番	和 田 敏 明 君	18 番	久 保 潤 爾 君
19 番	森 重 豊 君	20 番	重 田 直 輝 君
21 番	三 原 昭 治 君	22 番	村 木 正 弘 君
23 番	田 中 敏 靖 君	24 番	河 杉 憲 二 君
25 番	安 村 政 治 君		

○欠席議員

なし

○説明のため出席した者

市 長	池 田 豊 君	副 市 長	能 野 英 人 君
教 育 長	江 山 稔 君	代 表 監 査 委 員	末 吉 正 幸 君
上 下 水 道 事 業 管 理 者	河 内 政 昭 君	総 務 部 長	白 井 智 浩 君
人 事 課 長	糸 井 純 平 君	総 合 政 策 部 長	永 松 勉 君
文 化 ス ポ ー ツ 観 光 交 流 部 長	瀬 川 博 巳 君	生 活 環 境 部 長	金 澤 哲 君
福 祉 部 長	藤 井 一 郎 君	保 健 こ ど も 部 長	石 丸 典 子 君
産 業 振 興 部 長	杉 江 純 一 君	産 業 振 興 部 理 事	亀 井 幸 一 君
土 木 都 市 建 設 部 長	石 光 徹 君	入 札 検 査 室 長	池 田 昌 則 君
会 計 管 理 者	國 澤 明 君	農 業 委 員 会 事 務 局 長	栗 原 努 君
監 査 委 員 事 務 局 長	河 村 明 夫 君	選 挙 管 理 委 員 会 事 務 局 長	須 藤 千 鶴 君
消 防 長	米 本 静 雄 君	教 育 部 長	高 橋 光 男 君

○事務局職員出席者

議 会 事 務 局 長 寺 畑 俊 孝 君 議 会 事 務 局 次 長 篠 原 昭 二 君

午前 10 時 開議

○議長（安村 政治君） 定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

会議録署名議員の指名

○議長（安村 政治君） 本日の会議録署名議員を御指名申し上げます。19番、森重議員、20番、重田議員、御両名にお願い申し上げます。

一般質問

○議長（安村 政治君） 議事日程につきましては、先日に引き続き一般質問でございます。よろしくお願いたします。

これより質問に入ります。最初は、2番、中谷議員。

〔2番 中谷 哲君 登壇〕

○2番（中谷 哲君） 本日は、初当選の新人5名も質問させていただきます。トップバッターの、会派「自由民主党」の中谷哲でございます。どうぞよろしくお願いたします。

通告に従いまして、質問させていただきます。

大きく2つの質問でございます。

まず1つ目、がんばる地域応援事業についてでございます。

令和6年度に地域が抱える様々な課題を解決できるようになりましたモデル事業ですが、今年度の活用状況、及び今後の事業の在り方についてお伺いいたします。

○議長（安村 政治君） 2番、中谷議員の質問に対する答弁を求めます。市長。

〔市長 池田 豊君 登壇〕

○市長（池田 豊君） 中谷議員のがんばる地域応援事業についての御質問にお答えいたします。

市民や議員の皆様からの御意見を受け、法定外公共物の維持管理に係るモデル事業を令和5年度に西浦地区で実施しました。今年度は令和8年度からの次期総合計画に位置づけられるよう、制度の創設に向け、がんばる地域応援事業の実施を開始したところでございます。

まず、今年度の状況でございます。

この事業をより多くの自治会等に活用していただくため、市広報やホームページ、FMわっしょいでの取組事例の案内、また写真を多用し、分かりやすく取組事例をまとめたチラシで全自治会長へ案内するとともに各公民館へ掲示するなど周知に努めてまいりました。この間、議員の皆様におかれましては、各地域への事業の案内をされるなど、周知に御協力いただきましたことに感謝申し上げます。12月までに3回の募集を行い、ほぼ全域から交付申請があり、花壇の整備、高齢者のごみ出し支援、交流イベントや自治会のデジタル化など、97件の取組に活用していただきました。その中には、複数の自治会が協力して地域の活性化のためイベントでもちまきをされた事例もありました。今年度この事業は一定の評価をいただいたものと考えております。また、来年度以降もこの事業を継続してほしいという声や、やりたいことがあるが5万円では少ないという声なども伺いました。

次に、今後の事業の在り方についてです。

令和8年度の制度の創設に向け実証2年目となる新年度は、今年度いただいた声や実績等を踏まえ、これまでの5万円については継続するとともに、新たに地域自治会連合会を対象に30万円の補助枠を設けることとしております。これにより、これまで以上に利用しやすい事業になり、地域づくりが活発になることを期待しております。

なお、運用面につきましても、この事業を多くの方に利用していただくため、柔軟に対応したいと考えております。今後も地域からの声をお聞きしながら、利用しやすいよりよい制度となるようしっかりと取り組み、令和8年度からの次期総合計画に位置づけてまいりたいと考えております。

以上、御答弁申し上げます。よろしくお願いいたします。

○議長（安村 政治君） 2番、中谷議員。

○2番（中谷 哲君） 市長、御答弁ありがとうございました。令和8年度の4月の創設に向けて令和7年度の拡充ということで、地域にとっては大変ありがたいことだなと思います。

現在防府市に254自治会がある中での利用でございますが、まだまだ利用率的には高くないのかなと。それが自治会ごとの単会ごとに温度差があるのか、まだまだ周知不足なのか、それともその両方かもしれません。先ほど市長も申された用途でございますが、赤線・青線の維持管理、また草刈り等いろんなものに活用されておりますが、コロナ禍も完全収束とまではいきませんが、地域の活性化を図る、地域のイベントにも利用できるということでございました。我々市議会議員も地域の代表としてこの場に立たせていただいております。自治会連合会の総会であったり、例会におきましてもしっかりと情報発信していき、利用率を向上し、より住みよい地域づくり、まちづくりができるように精進してまいります。令和8年度の創設に向けて防府市におかれましても、さらなる周知、情報発信をしていただくことを要望し、この項を閉じさせていただきます。

2つ目の質問でございます。部活動の地域クラブへの移行についてでございます。

学校部活動は、スポーツや文化・芸術に興味、関心のある生徒が自主的、自発的に参加し、学校教育の一環として行われ、教員等の献身的な支えにより、スポーツ・文化・芸術振興の一翼を担ってまいりました。また、異なる年齢との交流の中で、生徒同士や生徒と教員との好ましい人間関係の構築を図り、学習意欲の向上など、学校という環境における生徒の自主的で多様な学びの場として教育的意義を有してきました。少子化が進展する中、学校部活動を従前と同様の体制で運営することは難しくなっており、学校によっては、存続が厳しい状況にある部活もあるそうです。そのような中で、子どもたちが部活動の地域移行に伴い、安心して地域クラブ活動に取り組めるのかということを非常に心配していたため、12月の一般質問において、進捗状況をお尋ねしました。防府市からは、モデル事業を進める中で見えてきました課題とその解決に取り組むと御答弁をいただきました。私は、小学校のPTA連合会の会長といたしましても、市が推進する部活動改革推進協議会にも参加してまいりました。会議に参加する中で、防府市の地域移行は、子どもファーストで着実に進んできているのを感じました。そのような中で、中国大会、全国大会にも出場したクラブもあると聞いております。地域クラブという新しい環境の中で、子どもたちが活躍していることを大変うれしく思います。また、クラブ管理事務局の大変な御努力もあり、子どもたちが様々なスポーツ・文化・芸術活動に参加できるような受皿も整いつ

つあります。防府市のこの部活動改革の状況は、これから地域移行に取り組まれる他市のモデルになるようなすばらしい取組であると感じています。

私も、地元の大道地域で子どもたちのためにも地域移行に協力していきたいと考えております。そのような中、今後さらに地域移行を進める上では、私個人としては生徒の活動場所への移動、クラブ運営に必要な経費、また指導者資格の取得が大変に大きな課題であると感じているところです。防府市部活動改革推進協議会で示された防府市地域クラブ活動推進方針にも、地域クラブ活動は将来にわたり生徒がスポーツ、芸術文化活動に継続して親しむことができる環境を整備するとあります。持続可能な地域クラブになるには生徒や保護者、立ち上がるクラブの負担の軽減や指導者への支援が重要と考えています。

そこで、地域クラブ活動に参加する全ての子どもたちが仲間とともに喜びや達成感を感じることができるように、環境整備することが大切だと考えていますが、令和7年度末の完全移行に向けて現在の状況と今後の取組について御所見を伺います。

○議長（安村 政治君） ただいまの質問に対する答弁を求めます。教育長。

〔教育長 江山 稔君 登壇〕

○教育長（江山 稔君） 中谷議員の部活動の地域クラブへの移行についての御質問にお答えします。

国においては将来にわたり子どもたちが希望するスポーツ・文化・芸術活動に親しむ機会を確保するため、中学校部活動の地域移行を推進しています。

防府市ではこれまで音楽のまち・スポーツのまちとして地域や関係団体の方々に支えられて子どもたちが様々な部活動で活躍してきました。このように本市には地域全体で子どもたちを見守る温かな土壌があることから、私は、子どもたちが希望するスポーツ・文化・芸術活動に親しめる場を地域につくっていきたいと考え、モデル事業等を行いながら地域移行に取り組んでまいりました。議員御案内のとおり、先行してモデル事業に取り組んでいる各クラブにおいては、専門的な指導者の下、中国大会や全国大会に出場するなど大きな成果を上げてきています。

令和7年度末の完全移行に向けた現在の状況と今後の取組でございますが、本市では、令和3年度に私をトップとする部活動改革推進協議会を立ち上げ、教育委員会と文化スポーツ観光交流部が連携して地域移行に取り組んできました。令和3年、4年度は実践研究、令和5年度には剣道、柔道において実証実験を実施しました。今年度は新たにスポーツから団体競技の軟式野球、文化から吹奏楽を加えたモデル事業を実施し、課題の抽出、把握を行うとともに、解決策を検討してまいりました。

さらに、防府市地域クラブ活動推進方針や防府市地域クラブ活動の運営に関するガイド

ラインを策定し、地域クラブ活動を推進する環境整備に努めてまいりました。

先行したモデルクラブに参加した子どもたちからは、地域クラブ化することで少人数のため諦めていた団体種目に取り組むことができた。学校の枠を越え目的を同じくする仲間と活動する喜びや達成感を味わえた。専門的な指導を受けられるメリットがあったという声がありました。令和7年度中には、学校部活動が終了します。8月にはスポーツ、11月には文化が地域クラブ化いたします。

現在地域の方や各種団体、教職員等の御協力により、19種目35団体43か所で地域クラブが活動を開始する予定です。全ての子どもたちが希望するスポーツ・文化・芸術活動に参加できるよう、引き続き様々な方の御協力を得ながら、地域移行に取り組んでまいります。

議員御指摘のとおり、地域移行を進めるにあたっては、教育委員会としても活動場所への移動、クラブ運営に必要な経費、指導者資格の取得は大きな課題だと捉えています。そのため、令和7年度は活動場所への移動については、公共交通機関を利用して地域クラブに通う生徒の交通費を全額公費負担します。さらに、令和8年度にはマイクロバスを3台導入し、移動の支援に努めることとしています。

クラブ運営に必要な経費については、クラブの立ち上げに必要な備品や用具類の購入を公費負担します。指導者資格の取得については、子どもたちが安全で質の高い指導を受けられるように、指導者として携わる方に対して公認指導者資格の取得費用を全額公費負担します。こうした地域クラブへの取組は、防府市ならではのものであり、他市に例のない防府モデルと言えるのだと自負しております。

本市においては、令和3年度に部活動改革推進協議会を立ち上げ、実践研究、実証実験、モデル事業を経て、様々な方の意見をいただきながら、令和7年度末の地域移行に向けて、想定でき得る対策を講じてまいりました。しかし、地域移行後も新たな課題は生じるものと考えております。そのような中においても、地域クラブが持続的に運営されるよう継続した取組が必要だと考えております。地域移行後には、各クラブも参加する新たな協議会を立ち上げ、現場の声も聞きながら、行政、家庭、地域、そして学校が連携して、子どもたちがさらに活躍できる、よりよい地域クラブとなるよう取り組んでまいります。

以上、御答弁申し上げます。

○議長（安村 政治君） 中谷議員。

○2番（中谷 哲君） 大変うれしい御答弁ありがとうございます。何より心配していた指導者の方々、親御さんも安堵されていることと思われまます。本当にありがとうございます。私自身も、この令和7年4月より大道地区におきまして、男子のバレーボール、女

子のバレーボールの2チームを立ち上げる予定でございます。本当に会社を1社立ち上げるぐらいの大変な労力であり、大変なことなのですが、しかし防府市のバレーボール協会さんであったり、また、地域の皆様の御協力により、何とか指導できそうな形でございます。先日、体験会をさせていただいたところなのですが、思いのほか市内全体から20名超の参加がありまして、指導者のメンバーとすごくうれしいのだけど、移動手段をどうしようかと考えていたところでございます。本当に頼もしい、うれしい御答弁をいただき、先ほど申しましたが、指導者のみんなも親御さんも本当に安心されているのではないかなと思います。この先進的な取組、先ほど御答弁にございました令和7年度の公共交通、バス、電車代の交費負担、次年度にはマイクロバスの運行、また、立ち上げ時の公費負担、公認指導者資格取得の公費負担というのは、全国にも例がないのではないかと思います。私も、非常に令和8年の4月の中学生を迎える子どもたちが不遇な年になるというのはすごく絶対的に許されないものだと思っておりましたので、いろんところで調べました。恐らく全国でも先進的な取組だと思います。モデルの市になるのではないかと考えます。本当にありがとうございます。

こういった先進的な取組をしていただく中で、部活動の地域移行について、市長に一言思いをお聞かせいただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

○議長（安村 政治君） 市長。

○市長（池田 豊君） 中学校の部活動から地域クラブへの移行、これは全国的な取組でございます。私は子どもファーストで、このことを子どもにとっていいことだというふうに進めていきたいと思っております。先ほど教育長の答弁した中で、少人数のためにこの中学校ではこのクラブに入れなかった、それとか、もっといい専門的な指導者から指導を受けたいという子どもの思いがあると思います。そうした中で、一方で、この市議会においても、多くの議員の皆様から、子どもたちの移動する手段をどうするのかとか、指導者をどうするのかと、新しく立ち上げるとお金がかかるとか、様々な議員の皆様から言われました。そうしたことを教育委員会とも話をしながら、また教育長からの意見を聞きながら、どうしたらいいかなということを考えたときに、この多くの課題である移動手段、立ち上げ費用、そしてこの指導者の資格、これはいろんところでもあって、各いろんな協議会の方からも伺っておりますので、これらについて、令和8年度からですと7年度中にしなきゃいけませんので、明確に市のほうでこうするというところで、現場の地域移行をしっかりと私としてはサポートしたいということでさせていただきました。これからまた各地域でしっかり取り組んでいただきまして、防府がモデルとなるような部活動から地域クラブのほうに移行していただければと思っています。

防府の子どもたちは、文化もスポーツも本当に頑張っています。それをしっかりと応援していきたいと思います。よろしく願いいたします。

○議長（安村 政治君） 中谷議員。

○2番（中谷 哲君） 大変うれしい御答弁ありがとうございます。令和7年度末の完全移行に向け、私自身も行政、地域とともに地域クラブをつくり上げることをお約束し、地域クラブから巣立った子どもたちが一度防府を出たとしても、いずれ防府市で就職し結婚し、またその子どもたちがクラブチームで縦の社会であったり横のつながりを学び、次世代の防府市を担う子どもたちとして育ってくれるよう祈念いたしまして私の全ての質問を閉じさせていただきます。ちょっと早過ぎますか。どうもありがとうございました。

○議長（安村 政治君） 以上で、2番、中谷議員の質問を終わります。

○議長（安村 政治君） 次は、9番、宮元議員。

〔9番 宮元 照美君 登壇〕

○9番（宮元 照美君） 会派「市民と共に」の宮元照美です。昨年11月に当選させていただいて、思ったよりハードな仕事だと痛感しておりますが、市民の皆様へ寄り添える議員を目指して頑張っております。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは通告に従い質問させていただきます。

私は、防府市を日本一の防災都市にすることを最重要課題の一つとしております。安全・安心なまちづくりを進め、市民の皆様へ防府市に住んでよかったと思っただけのように頑張ろうと思います。阪神淡路大震災発生から30年が経過しました。当時私は知人とともにボランティア活動に参加しました。神戸市の長田区の学校でボランティア活動に従事しました。現地に入るまでの道路は盛り上がり、建物が倒壊している光景を見て、以前旅行で行ったすてきな神戸の町並みとは思えませんでした。現地でのボランティア活動と言っても、食べ物を配るくらいしかできず何もできないことにとってもショックを受けました。ボランティア活動中に神戸の被災者の方が地震の様子を話してくださいました。

その方は、朝お茶を飲んでいたら突然体が突き上げられ、その後横揺れになり停電し気がついたら庭に投げ出されていた。真っ暗な中で妻の安否が分からず、妻の名前を一生懸命叫ぶと、倒れた冷蔵庫に足を挟まれ動けない状態の妻を見つけ、何とか助けたと教えてくださいました。神戸がこんなことになるなんて思ってもみなかったと言われていたのが今でも忘れられません。

そして、平成21年7月21日の中国・九州北部豪雨により、防府市では土石流災害が発生し、最終的に19名の尊い命が奪われました。あのときの神戸がこんなことになるな

んてという言葉を出すとともに、私も何とかお役に立てないものかと思い、当時の自治会長から防災士になる制度が防府市にはあると伺い、少しでも皆様のお役に立ちたいという思いから、防災士の研修に参加させていただきました。

現在までいろいろな研修に参加し、知識を得ることができました。その中で、女性特有の困りごとが多いことを感じました。私は牟礼に住んでおり、牟礼防災士等連絡協議会に所属しております。牟礼独自のハザードマップ作成や、牟礼地域の危険箇所巡りなどの活動にも参加し、多くのことを学ばせていただいております。市の防災危機管理課の出前講座も何度も牟礼地域で受けさせていただきました。災害時に避難所運営の模擬体験するHUGゲームや日本防災士会山口支部女性部長の坂本京子先生の講座も避難所での防災食のこと、いざというとき準備するもの、近所の助け合いのことなど知識を得ることは大切で、いざというとき役に立ちます。防府市全域に波及したいと思いました。そこでお尋ねします。

現在防府市の人口は男性5万5,000人、女性5万7,000人で、女性のほうが約2,000人多い状況です。災害時には多くの女性が避難されることが想定されます。避難所においては、女性特有の問題にも対応する必要があります。例えば、特に女性の生理や妊産婦への配慮、授乳をはじめ、乳幼児を持つ家庭への配慮です。男性の防災士さんには相談しづらいときが多々あります。できれば女性のほうがよい場合もあります。現在、社会のいろいろな分野で女性の参画が求められている状況を鑑み、女性視点を防災活動に取り入れるための防府市の取組についてお尋ねいたします。よろしく申し上げます。

○議長（安村 政治君） 9番、宮元議員の質問に対する答弁を求めます。市長。

〔市長 池田 豊君 登壇〕

○市長（池田 豊君） 宮元議員の女性視点の防災の取組についての御質問にお答えいたします。

私は、災害に強い安全・安心なまちづくりには、地域の皆様と一体となって進める防災力の強化が大変重要であると考えております。このため、本市ではこれまでに県内最多となります500人を超える防災士を要請し、防災士等連絡協会と連携した防災講座を実施するなど、防災対策に取り組んでいるところでございます。

宮元議員から阪神淡路大震災でのボランティア活動の御紹介がございました。私は、震災後、神戸市の東灘区の中学校に炊き出しのお手伝いに行ったことを思い出しました。

また、職員時代には、熊本地震で被災され、避難所におけるリーダーをされた女性の方から、直接当時の避難所生活の困難な状況をお聞きする機会がございました。こうした経験の一つ一つが私の防災に対する強い思いにつながっております。

それでは、議員お尋ねの女性視点の防災の取組についてです。災害時における女性の視点は大変重要でございます。本市では防災危機管理課に消防職員、退職自衛官を各2名配置しており、今年度から、さらに女性職員を増員し、女性職員2名体制ということで、女性の視点を取り入れた体制を強化いたしました。こうした体制で、災害時の初動72時間に対応できる市町は県内では本市のみでございます。

また、避難が長期化した場合には、可能な限り避難所へ女性職員を配置することといたしております。そして、本市には50名を超える女性防災士や30名を超える女性消防団員がおられ、女性が自主防災活動の中心的な役割を担っている地域も増えているところでございます。今後も、女性の防災活動への参加を促進するため、女性向け防災セミナーの充実など、防災への理解を深めていただく啓発をさらに進めてまいります。

また、避難所生活における女性に配慮した対策も不可欠であることから、このたびの補正予算において、大規模災害時を想定し、安心して着替えや授乳ができるよう、プライバシーを守るパーティション等をしっかりと確保するとともに、衛生的で女性が安心して利用できるトイレレーラーの配備を急ぐこととしております。

そして、本年1月にオープンしましたこども家庭センターに隣接して整備する留守家庭児童学級は、妊産婦や乳幼児を持つ家庭等に特化した避難場所とすることといたしております。女性や妊産婦、乳幼児向けの支援物資をしっかりと確保し、災害時には専門的な知識を持った保健師がサポートしてまいります。今後も、防災への女性視点の重要性について理解を深めていただくための啓発や、女性の防災訓練への参加を促進するなど、しっかりと防災への女性参画を進めてまいります。

以上、御答弁申し上げます。よろしくお願いいたします。

○議長（安村 政治君） 9番、宮元議員。

○9番（宮元 照美君） 女性の視点の防災に取り組んでいただきありがとうございます。市長がいろいろ体験されているということをお伺いして、同じ気持ちになって本当にうれしく思います。そして、女性特有のデリケートな問題にも配慮してくださっているんだなと思っております。ありがとうございます。

本年度も総計、現時点で約150回の防災出前講座と曜日も関係なく開催していただき、本当にありがとうございます。市の防災マネージャーにも心から感謝申し上げます。引き続きしっかりと啓発に取り組んでいただけますようお願いいたします。さらに、女性の視点で防災対策に取り組んでいただけますようよろしくお願いいたします。日本一の防災都市を目指し、一緒に頑張っていきたいと思っておりますので、これからもよろしくお願いいたします。

私からの質問は以上とさせていただきます。ありがとうございました。

○議長（安村 政治君） 以上で、9番、宮元議員の質問を終わります。

○議長（安村 政治君） 次は、5番、藤本議員。

〔5番 藤本 真未君 登壇〕

○5番（藤本 真未君） おはようございます。「未来防府」、藤本真未です。通告に従い一般質問をさせていただきます。

3月ということで子育て世代の皆様から多く意見が寄せられています。その一つが部活動の地域移行についてです。防府市の現状では、東部、西部、中部と大きく市内3か所で子どもたちが通えるよう各クラブが配置されています。どこを選んでもいいようになっており、令和8年度には全てのクラブが移行完了予定となっていると思いますが、そこで質問をさせていただきます。

1つ目、まず自転車通学に関してです。既に許可されている学校もあると聞いていますが、今後、クラブが地域移行になると、子どもたちの移動に自転車の利用が必要になると考えます。現在は、学校から家までの距離等が判断基準であったと思いますが、今後はどうに進められるのかお伺いいたします。

2つ目の質問です。子どもたちが教科書等の重い荷物を持ったまま移動することについてです。平成30年、文科省より置き勉について推奨となっていますが、改めて確認をさせてください。現在の子どもたちの荷物の量について把握されていますか。地域移行が始まると教科書等をはじめ、クラブの道具、練習着を持つての移動となります。タブレットの導入、教科書、クラブの道具等を持つて移動を考えた場合、かばんが2つになってしまう子が出てきます。体への負担や交通の安全性に懸念を抱きます。学校が終わった後そのままの足で希望するクラブへ向かうことになると思いますが、置き勉を許可していただき、その上でタブレットの活用を充実するという本市の考えをお聞かせください。

3つ目です。次に、団体種目の練習参加の課題についてです。

テスト週間が統一でないことが懸念されています。団体種目に関しては、各学校の授業やテスト週間など、学校の行事、日課等のばらつきによって試合前であってもチームメイトがそろわず練習にならないといった声を耳にしております。その点については把握されていますでしょうか。また、テスト週間を統一することについてどのような課題があるのかお伺いいたします。

以上、3点、よろしくお願いたします。

○議長（安村 政治君） 5番、藤本議員の質問に対する答弁を求めます。教育長。

〔教育長 江山 稔君 登壇〕

○教育長（江山 稔君） 藤本議員の地域クラブ活動への移行に伴う諸課題についての御質問にお答えします。私からは地域移行の基本的な考え方をお答えします。

私は、全ての子どもたちが希望するスポーツ・文化・芸術活動に親しめる場を地域につくっていきたいと考え、モデル事業等を行いながら地域移行に取り組んでまいりました。

先ほど中谷議員に御答弁いたしましたように、本市では他市に先駆け、令和7年度末の地域クラブへの移行を進めております。課題として上がっていた活動場所への移動、クラブ運営に必要な経費、指導者資格の取得についての具体的な3つの支援は防府市ならではのものであり、他市に例のない防府モデルといえるものです。

なお、3点の御質問につきましては、教育部長が答弁いたします。

○議長（安村 政治君） 教育部長。

○教育部長（高橋 光男君） 私からは、地域クラブ活動への移行に伴う諸課題についての3点の御質問にお答えします。

1点目の自転車通学についてお答えします。

地域クラブに参加する生徒の自転車の利用については、モデル事業の実態を通して、通学距離にかかわらず自転車通学が可能となるよう、学校と調整しているところでございます。

次に、2点目の移動に関する荷物の軽減とタブレット端末の活用についてお答えします。

教科書等につきましてはこれまでも学習上の必要性、登下校の負担等を考慮した上で持ち帰らず学校に置くなどの対応をしております。また、クラブ活動に必要な道具や物品につきましては、活動場所で管理、保管できるように現在環境整備を進めているところです。さらなる負担軽減につきましては、議員御提案のタブレット端末の活用なども含め研究してまいります。

3点目の練習日程の把握とテスト週間統一の課題についてお答えします。

議員御案内のとおり、テスト等でクラブ員がそろわないことがあることは承知しております。テストも含めた学校行事は、各学校が特色ある教育活動を展開するために決定しております。地域クラブは複数の学校から生徒が集まっておりますので、校長会等で情報共有し、可能なところから調整に努めてまいります。

以上、御答弁申し上げます。

○議長（安村 政治君） 5番、藤本議員。

○5番（藤本 真未君） 御回答いただきありがとうございます。1つ目の質問に対してです。

学校と調整しているということでありありがとうございます。もちろん安全が第一だと思っております。校長会でもお願いしてくださっていることが聞き取りを通して分かりました。また、交通教室の徹底もしていただけると聞き取りのときに伺っていますので、そこもよろしく願いいたします。ですが、本当にやりたいクラブを選べるというこのチャンスがあるのに、自転車通学の許可がなければ子どもたちの選択を奪うことになりかねません。しっかりと練習時間が確保できるよう、遠い子でも自転車通学の許可を出し、防府市全域の子どもたちが通学に困ることがないように許可の統一を再度要望いたします。

2つ目の質問に関しては再質問させていただきます。

置き勉の質問ですが、市のほうでも推奨の発信をしてくださっていることが分かりました。もちろん紙の宿題も大切だと思いますし、全てがタブレットということが難しいということも、学校によって違うということも重々理解しているつもりです。ですが、学校によって差があることは承知しておりますし、私自身4人の子育てをしています。子どもたちの様子を見てみると、家でタブレットで宿題をする姿をそう見る機会は多くないというのが現実です。

そこで再質問します。

本市全生徒に配布しているタブレットの使用状況についてお伺いします。現状タブレットの使用はどのようなときに使われているのか、タブレットの使用頻度はどのくらいのものなのか、宿題を出されている率を把握しておられるのでしょうか。

以上よろしく願いいたします。

○議長（安村 政治君） 教育部長。

○教育部長（高橋 光男君） 御質問にお答えいたします。

タブレットの使用がどのようなときに使われているかについて、まずお答えいたします。

授業や校外活動、家庭学習、委員会活動など様々な場面で必要に応じて活用しております。

それから、タブレットの使用頻度についてでございます。

今年度中学校3年生を対象に行われた全国学力学習状況調査の生徒質問によるとICT機器をどの程度授業で使用したかという調査項目に対して、本市ではほぼ毎日と答えた割合は68.9%で県や全国の数値と比べ30ポイント以上高い数値でございました。本市が他市に先駆けていち早く一人一台タブレット端末を一斉に整備したこと、通信環境によらず、使用できるLTE型モデルを導入したこと等の成果であると考えております。

続きまして、宿題を出されている率の御質問でございます。

昨年11月実施の文科省調査によりますと、クラウドサービスやデジタル教材を用いて

宿題を実施しているかという質問に対して、市内全ての中学校が学期中もしくは長期休業中において実施していると回答しています。

以上でございます。

○議長（安村 政治君） 5番、藤本議員。

○5番（藤本 真未君） 分かりました。御回答ありがとうございます。全国・県より30%ほど高い68.9%ということで、防府市は、どの分野においても特化しているなと感じています。引き続き調査のほうはすべきだと考えておりますので、調査のほう、よろしく願いいたします。

教科によって置いて帰れるものそうでないものがあると思います。ぜひ推奨しているだけではなく、現場を見られてみてください。今まで各学校で使用していた部室も有効に活用されるということ、よって部室に荷物を置いて帰れるということも分かっています。ですが、例えば野球部に所属していればグローブやユニフォームは持ち帰ることが多い、そしてタブレット、教科書、荷物、やはりかばんが2つになってしまい、通学の安全性に欠けることが親の立場からすると心配でなりません。国の動きとしては、今年の2月14日デジタルのさらなる活用を検討してきた中教審が中間案をまとめ、今年の秋ごろをめどにより具体的な方針を示すとの報道がありました。新しい学習指導要領が実施される2030年度から新しい教科書運用を始めたいとされていますが、計画まで5年あります。引き続き国の動向も含めデジタル教科書の運用が進むよう、本市もしっかりと備えていただけるよう再度お願いしておきます。

クラブ活動に自転車を使用することによって荷物が2つになってしまうことでだけの事故はないよう強く要望いたします。

そして3つ目、テスト週間の統一についての御質問の御回答ありがとうございます。聞き取りの際に、たくさん動いてくださっていることは分かりましたし、学業が優先ということは分かります。もちろん保護者の皆様の考えとしても、学業をおろそかにしてほしいと思っている方はいないと思っております。ですが、先ほどもお話ししましたがテスト週間を統一するのが難しいとなれば、団体種目の子どもたちの結果に影響が出ると考えています。そんな環境で子どもたちが未来に希望が持てると思われませんか。

もちろん市教が言われるように学業が最優先、学校独自の行事等もあるかと思えます。ですが、学業よりスポーツが得意な子もいます。もちろんスポーツより学業が得意な子もいます。それを楽しみに学校生活を送っている子もいます。不登校問題も深刻な問題になっていて、何を楽しみに学校に行くのかは様々です。国から初めてのことがそれぞれの自治体に落とし込まれて、その中でも防府市は先駆けてどんどん進化していることを、厚く

評価いたします。団体競技に関しては、しっかりとチームを組んで大会に臨める体制をつくっていくべきだと思っております。勝ち負けであったりうれしさ、悲しさ、悔しさ、楽しさが分かち合える、喧嘩したり、笑ったり、いろんな感情を学ぶことができる、そして一つの大会、同じ目標に向けて切磋琢磨する中学校のこのたった3年間の青春、この経験はこの時代にしかできないと思っております。プロのスポーツ選手を目指している子どもたちもたくさんいます。どうか子どもたちに夢をつかませてあげてください。そのためには、テスト習慣を統一し、しっかりと団体競技に取り組める環境づくりを整えるよう、要望いたします。

先日、第3回部活動改革推進協議会を傍聴させていただきました。第2回の議事録は、2日後に更新されておりましたが、2月21日にありました第3回の議事録は、昨日も確認しましたが、まだ上がっておりませんでした。お忙しいと思いますが、なるべく早く更新をお願いいたします。

その協議会では、防府は先進的で地域スポーツ長も防府を視察候補に上げてくれるくらい進んでいると絶賛されており、私もうれしく思いました。そしてその中で、委員の方より、校舎の鍵を貸すことに対して、何か策や指導をしてほしい、セキュリティ問題の不安な声、中体連組織をどうするのか、ほかにも地域全体で見守る必要がある、自転車置場の拡充や、カーブミラーの増設等、様々な声が上がっておりました。また、今までの部活動に比べて、入る子が少なくなるのでは。入らない生徒、入れない生徒の支援をどこがするのか、何でもありのクラブをつくって支援するのが大切なのではと教育者側からの不安な声も上がっておりました。

子育て世代が注目しておりますクラブ移行、人一倍子育てに力を入れております池田市長の思いを最後に聞かせていただけないでしょうか。よろしくをお願いいたします。

○議長（安村 政治君） 市長。

○市長（池田 豊君） 私は、小学生の陸上のクラブとか、市長になる前はいろいろと地域で時々見にいきますし、また、中学校のいろんな大会、市の大会も可能な限り全てものを私は見てきております。そうした中で、やっぱり防府の子どもたちがこれからも頑張ってくれるということが先ほども申し上げましたけど、一番だと思っております。子どもたち、今の小学生が中学校に行ったらもっと頑張るんだぞと思って、そしてもっともっと上に頑張っていこうじゃないかというようになるように、私は指導はできませんけれども、サポートは市としてしっかりとしていきたいと思っております。子どもたちが大丈夫だと思ってもらえること、そういうことまた議員の皆様方には、地域のほうでしっかりと伝えていただければと思います。子どもたちのためにしっかりと頑張りたいと思います。

よろしく申し上げます。

○議長（安村 政治君） 5番、藤本議員。

○5番（藤本 真未君） 可能な限り市内の大会を見に行ってくださいというところで、私も何度か市長とお会いしたことがあります。ありがとうございます。

最後になりますが、私も一人の母として地域移行には大いに注目しております。課題もたくさんありますがすばらしい面もあることを理解しています。防府市の子どもたちにとって例えば自分が通う学校に部活動が二つしかなかった、そういった子どもたちにとってはこの地域移行という形で多くのクラブの選択が増えたこと、ここには大きく希望が持っていると感じています。そして、先ほど御答弁がありました交通費全額負担、バス3台購入、クラブ立ち上げ費用の公費負担、指導者資格費用の全額公費負担が決まり、子どもたちの夢をかなえる三つの支援が発表されたこと、とてもうれしく思っています。本当にありがとうございます。まだまだ改善点もあるかと思いますが、走りながらでも少しずつ修正して、子どもたちの生きる力となるようしっかり整備のほうよろしく申し上げます。

それではこの項の質問を終わらせていただきます。

続きまして、市議会議員選挙の投票率についてです。

11月に行われました過去最低率と言われた市議会議員選挙、当日の有権者数9万3,604人に対し、総投票者数4万3,290人、市のホームページを見ると、令和6年12月2日現在選挙人名簿登録者数、確定投票、選挙結果この3つしか上げられていません。なぜ選挙に興味を持ってもらえないのか、選挙に出た私たちとしても考える必要があると思っています。そのため前回の一般質問でも、何人かの議員さんが質問されましたが、私からも質問をさせていただきます。先日問合せをした際に、投票区別投票者数、年齢別投票率、期日前の年齢階層別集計表を選挙管理委員会よりいただきました。議員の皆様、お手元のタブレット議場配付資料の中に資料を入れていただいておりますので御覧ください。

そこで質問させていただきます。

1つ目の質問です。

先ほど申し上げました3つの集計表、2月28日に更新されておりましたが、なぜ集計されたものを市民の皆様公表されなかったのでしょうか。

2つ目の質問です。

期日前投票を含む選挙全体の周知方法、若者の投票率の向上について今後の取組をお伺いします。

以上、回答よろしくお願いたします。

○議長（安村 政治君） ただいまの質問に対する答弁を求めます。選挙管理委員会事務局長。

○選挙管理委員会事務局長（須藤 千鶴君） 藤本議員の市議会議員選挙の投票率についての2点の御質問にお答えいたします。

まず、1点目の市議会議員選挙の投票結果の集計の公表についてです。

現在、選挙管理委員会事務局では市ホームページの選挙の記録のページ内に選挙別の立候補者の得票数や全体の投票者数、投票率の集計結果を掲載しており、今回の市議会議員選挙の結果につきましては、2月末に掲載したところでございます。また、議員お示しの投票区別投票者数や年齢別投票率、期日前の年齢階層別集計等の詳細データの集計結果につきましては、本市の選挙結果を知っていただく資料の一つとして公表することとし、今回の市議会議員選挙結果からホームページに掲載いたしました。

次に、2点目の期日前投票を含む選挙の周知と若者の投票率向上についての今後の取組についてです。現在、期日前投票所を含む選挙の周知方法は、選挙の投票所入場券や市広報、市ホームページ、新聞広告、横断幕や期日前投票所への案内看板等の媒体で行っております。今後、選挙の状況がより市民に幅広く届くよう、防府市公式LINEやInstagram、フェイスブックなどのSNSや防府市メールサービスを利用した情報発信にも積極的に取り組んでまいります。

次に、若者の投票率向上の取組につきましては、子どもの頃から選挙や政治への興味関心を持ってもらうことが重要なことから小学校、高校の出前授業などの主権者教育や若者の投票立会人の起用等に取り組んでいるところです。今後、新たな取組として子どもの頃から家族で投票に行くことで、選挙をより身近に感じてもらい、投票に行くことの重要性を理解してもらうため、家族と一緒に選挙に行こうキャンペーンを実施する予定です。多くの子どもたちに投票所に来てもらい、将来的に有権者になったとき投票に行ってもらえるよう、取り組んでまいります。

以上、御答弁申し上げます。

○議長（安村 政治君） 5番、藤本議員。

○5番（藤本 真未君） 御回答いただきありがとうございます。そして、すぐに掲載していただきありがとうございます。

1に対してですが、せっかく集計をされていたのにも関わらず、純粹にもったいないと感じました。業務が多く大変かと思いますが、こちらのほうも随時更新をお願いいたします。この数字を見て、期日前投票が総投票者数の4割を占めていることから、期日前投票所は大切であると再認識することができたと思います。昨日の答弁でもありました期日前

投票所も市役所に増設、そして移動投票所も3から6に増やすということで、さらに今後の取組として、模擬投票を組み込んだ出前講座やSNS発信、そして家族で一緒に選挙に行こうキャンペーン、親子で選挙に来た子どもに選挙啓発グッズのプレゼント、市内幼稚園等にチラシ配布等を検討されていること、本当にうれしく思います。ありがとうございます。そうはいつでも執行部の取組の問題だけではないとも考えています。私たち議員が日々の活動報告や地域での取組、また市民に寄り添った声を一つ一つ実現していくことが選挙に行くことにつながると確信しています。実際に、私も議員になるまでは、議員が何をやっているのか議員に何を届けていいのかわかりませんでした。ですが、自分が議員になり自分が気づかなかったまちの課題を知り、議員それぞれが課題解決に向けて取り組んでいくことが投票率につながっていくんだなと実感しています。例えば、産後ケア事業や市役所が新しくなったこと、デジタルを使った発信が市政を近くに感じ、信用につながると実感しています。私自身もしっかりと子育て世帯に届く発信をしてまいります。本市ホームページの充実も引き続きよろしく願いいたします。

昨日の答弁でもありました総務省が発表している親の選挙に行った子が大人になって選挙に行く傾向がある。今40代の方のパーセンテージが20代の頃のパーセンテージと同じだとありましたが、今回の市議会議員選挙、一番投票率の高かったのは75歳から79歳の62.04%です。そして一番投票率が低かったのは20歳から24歳の22.43%、このまま20代の方が興味を持たずに30歳、40歳、50歳、60歳となったとき、このまま22.43%ということになります。54歳以下の投票率は50%を切っています。投票率が下がったということは、政治に関して興味がない人が多いことが問題だとも思っております。

今日タブレットに入れていただいておりますこのデータを議員一人ひとりが分析し、浮動票と呼ばれる票を動かしていく必要があると考えております。そして当たり前のことかもしれませんが、私たち議員一人ひとりがたくさんの人に会い、たくさん発信していくことが大切であると思っております。選挙が終わって3か月しかたっていないので、今回、投票率について質問をさせていただきました。まだまだ微力ではありますが、魅力あふれる防府市を目指し、精進していきますので引き続きよろしくお願い致します。

以上、2項目ご回答いただきありがとうございました。私の質問を全て終了させていただきます。本日ありがとうございました。

○議長（安村 政治君） 以上で、5番、藤本議員の質問を終わります。

○議長（安村 政治君） 次は、15番、生野議員。

〔15番 生野 美輪君 登壇〕

○15番（生野 美輪君） 「公明党」の生野美輪でございます。それでは、通告に従いまして質問させていただきます。

まず、初めは、これからの市営住宅についてです。

昔から衣食住と申しますように、住まいは生きていく上で重要な要素の一つです。市営住宅は高齢者や障害者、生活に困窮されている方々の住宅セーフティーネットとしてとても重要です。しかし、その多くが昭和40年から50年代に建てられ、築50年を超えることになりました。令和4年に更新された防府市公営住宅長寿命化計画をもとに外壁修繕、ガス、水周りの改修工事などが行われてきていますが、バリアフリー化においては、古いタイプの住宅はエレベーターが構造的につけられず、住民の高齢化も進み、また単身世帯が増える中、エレベーターのない市営住宅の4階5階や多世帯用の3DKの間取りに空き住戸が見られます。

一方で、様々な理由で入居資格に該当しないために住むところにお困りの方がいます。例えば市内の看護福祉専門学校には、現在、ベトナム、ネパール、インドネシアからの留学生が学んでいます。福祉分野の人手不足は慢性化しており、現在働いておられるベテランの介護士の方が徐々に退職されていくと、ますます深刻になると予想されます。そうした中、専門知識を学ぶために来日した留学生は、真面目で勤勉であり、卒業後は即戦力として期待されています。しかしながら養成校から月2万円、施設から月3万円の補助金と、あとはアルバイトのお金で生活費を賄わなくてはならず、昼は学校、夜や休日は日本語の勉強やアルバイトで、学生たちには休む暇はありません。文化の違いや言葉の壁がある中、頑張っている留学生に安心して住める住宅の確保を学校関係者も求めています。また、卒業後も民間のアパートにはなかなか入れない現状があるようです。人手不足の市内の介護施設で働いていただくためにも、住まいの確保は重要だと考えます。皆さんが心配されるごみトラブルなども全くないと聞いております。市営住宅にお住まいの高齢者にとっても、知識のある学生が同じ住宅にいることは、安心できるのではないのでしょうか。

また、様々な理由で離職した人が親元も頼れない場合、働いていないとアパートも借りれず住む家がないと仕事も探せず、悪循環に陥っているケースがあると聞いています。ネットカフェで過ごした人もいるそうです。仕事が決まるまでの短期間でも入れると助かると思います。そのほか、災害時の一時避難や虐待からの避難など、様々な理由でお住まいに困っている方に、市営住宅の空き住戸を活用してはいかがでしょうか。

また、子育て世帯が入りやすいように、敷地内に公園や広場、畑スペースをつくり、バーベキューやお祭りなどの多世代交流を通じ地域活性化している事例もあり全国で様々

な取組がなされています。市営住宅が住宅のセーフティネットであるならば、時代の多様化に合わせて変化も必要だと思いますが、これからの市営住宅について御所見をお願いいたします。

次に、建て替えが進められている坂本住宅については国道2号に近く、環状1号線の延伸工事も完成間近で、交通の利便性に優れている土地であることから、将来的には子育て世代など多世代が集い、地域交流の拠点になることが期待されます。しかしながら、まずは現在住んでいる方たちの声をしっかりと聞き、そして御負担のないよう住み替えられるようにとはかねてより公明党の先輩議員が強く要望してまいりました。現在住んでいらっしゃる方たちにお話を伺ったところ、初めに説明とアンケートはあったがその後どうなっているか分からない。引っ越しを2回しないといけないのはきつい、子どもに手伝わしてもらわなければいけないので早く引っ越しの日を待ちたいなどの意見がありました。

皆様、今どういう状態なのか、実際自分はどうなるかというところを不安に思われています。そこで、現在住んでいる方の要望はどのように取り入れられているのか、今後住んでいる方たちへ途中経過の説明はどのようにされるのかお伺いいたします。

また、将来的には子育て世帯の方が入りやすい仕組みや、ますます増えると思われる単身高齢者用の間取りの設定など、幅広い年代層の方が効率よく住めるような間取りの設定が必要だと思います。高齢者の方がいつまでも元気で生き生き過ごせるような利用しやすい集会所の位置設計など、坂本住宅が子育て世代から高齢者まで、また要介後になっても可能な限りずっと住み続けられるように、関係各部署との連携を取り、今後の良質な市営住宅のモデルケースになることを大変期待しているところです。

坂本住宅の今後の取組について、どのように考えておられるかお伺いいたします。

○議長（安村 政治君） 15番、生野議員の質問に対する答弁を求めます。市長。

〔市長 池田 豊君 登壇〕

○市長（池田 豊君） 生野議員のこれからの市営住宅について、2点の御質問にお答えいたします。

住宅は市民の皆様が安心して生活する上で最も重要な基盤であり、社会が多様化するとともに大きく変化してきた住宅ニーズにも対応するため、これまでも計画的に建て替えや改修を行うとともに空き部屋の有効活用を検討してきたところでございます。

それでは、1点目の空き部屋の活用と地域の活性化でございまして。

議員御案内のとおり、現在、市営住宅では、高齢化に伴い、高層階を中心に空き部屋が増加している状況にあります。全国的にも老朽化した公営住宅で多くの空き部屋が生じている中、国において自治体が地域の実情に応じて、社宅などとして公営住宅の空き部屋を

弾力的に活用できる措置が図られてきたところでございます。こうした中、防府市の産業戦略本部においても、委員の方から、市営住宅を社宅等として活用できないか等のお声をいただくとともに、看護専門学校の皆様からも、学生のために市営住宅を利用できないかとのお話も直接伺っております。こうした意見等も踏まえ、本市では、市営住宅の有効活用を目指し、令和8年度にはモデルケースとして空き部屋の法人等への貸し出しに先駆的に取り組むことといたしました。そのため、新年度においては活用する市営住宅の改修を行うこととしております。

私は、この取組の中でそのニーズを見極め、さらに市営住宅の有効活用を拡大していきたいと考えております。令和7年度の取組は小さな一歩でございますけれども、地域の実情に応じた市営住宅の活用に向けて大きく踏み出していきたいと考えております。

続きまして、2点目の市営坂本住宅の建て替えについてです。

坂本住宅では、令和10年度に第1期の入居を開始できるよう、7年度中に設計を完了し、8年度から工事を始めることとしております。坂本住宅のあります牟礼地域は、国道2号の拡幅や環状1号線の延伸、公民館、消防署の移転、建て替えにより、利便性が向上し、絶好の立地環境となっておりまいます。建て替えに当たりましては、令和4年度から入居者を対象としたアンケートを実施するとともに住民説明会を行い、設計や入居者の住み替えについてその御意見を反映してまいりました。エレベーターを設置してほしい、子育て世帯にも多く入居してほしい等の御要望を伺っており、設計に当たりましては、エレベーターの設置をはじめとするユニバーサルデザインを採用するとともに、団地内に地域の憩いの場となる公園を整備するなど、最高の立地条件の中で、住民に喜ばれ、全国に誇ることができるような団地を整備してまいります。また、住み替えにつきましては、希望どおり新たに建設する坂本住宅に住み続けることができるよう、入居者に寄り添い十分な説明を行いながら住み替えを進めてまいります。

新たな坂本住宅に子どもの笑い声が響き、全ての世代の方が笑顔で安全・安心に暮らせるよう、すばらしい住環境を形成してまいりたいと考えております。

以上、御答弁申し上げます。よろしく願いいたします。

○議長（安村 政治君） 15番、生野議員。

○15番（生野 美輪君） 力強い御答弁をありがとうございます。市長の多様なニーズに応え、空き住宅を柔軟に対応していくとの御答弁を大変うれしく思います。市営住宅については、新年度に改修を行い、さらに令和8年度には法人に貸し出すことも考えておられるとお聞きしまして、大変うれしく思っています。また、新たなニーズに応え、様々な有効に活用されることを検討されていくということで、本当にこれから多くの人が多世代

の人が集い、市営住宅が明るく活気にあふれ、地域活性化につながっていくことを願っております。また、坂本住宅についても、アンケート調査をもとに住民説明会を行い、市民の皆様の要望にしっかりと応えて対応されているとお聞きしまして、大変安心いたしました。また、将来的には子どもの笑い声が響き、全ての世代の方が笑顔で安心・安全に暮らせる住環境を形成するとの御答弁に完成が楽しみです。

また、住民の方には寄り添って転居も進めてくださるということで、本当に規模も大きく時間がかかると思いますが、中間報告などをできるだけ密に行い、現在のお住まいの方が安心して引っ越しができるように重ねてお願いいたしまして、この質問を終わらせていただきます。

次に、子どもの遊び場についてです。

子どもの遊び場は子どもの心身の成長と発達にとって非常に重要です。子どもにとって遊び場は、単に楽しい時間を過ごす場所というだけでなく、跳ねる、登る、ぶら下がるといった運動能力やコミュニケーション能力、ルールを守るなどの社会性や協調性など、自然と身につけられる場所でもあります。私は、防府市は屋外の遊び場はとても充実していると思っております。メバル公園や競輪場などは家族連れでにぎわっているのをよく見かけます。家族そろって出かけることは子どもの情緒にとってもよい影響をもたらします。我が家の4歳の孫もメバル公園が大好きです。さらに、大平山山頂公園に新たに大型遊具が設置される計画に今から期待が高まります。また、全小学校区にインクルーシブ遊具を設置し、どこに住んでいても平等に、親に送ってもらわなくても遊びに行けるという点でもとてもいいと思います。

令和7年度には、全小学校にもインクルーシブ遊具が設置する計画であると伺いました。これほど屋外遊具が充実している市はなかなかないと思います。しかしながら雨の日は家にいるか商業施設に行くぐらいしかできないとの御意見もお聞きします。

また、年々暑さが厳しくなり、日中の最高気温が35度を超える日もしばしばで、立っているだけで汗をかくくらいです。特に乳幼児は体温が高く、地面にも近いため熱が体にこもりやすく、熱中症も気になるところです。また、付き添う保護者もおじいちゃん、おばあちゃんのことも多く、屋根のない公園はとてもきついと言われます。そのほかにもインクルーシブ遊具で遊ぶ子どもの中には、体温調整がうまくできず、配慮が必要な子もいるとお聞きしました。大道児童遊園にあるようなタープがあるだけでも違うそうです。夏の猛暑は今後も続くと思われれます。日よけや屋内の遊び場もほしいという声をよく聞きます。

先月、会派の行政視察で明石市のあかしこども広場を見学させていただきました。駅前

の商業用商業施設のワンフロアに年代ごとの思いっきり体を動かせる遊び場や、子どもも使用しやすい高さのキッチンルーム、工作ルーム、ダンスや体操ができる鏡のある多目的ホール、音楽スタジオなど、充実した設備が整っており、市民の子どもは無料で使えるそうです。市外の子どもや大人は有料になります。同じフロアには子育て支援センターやファミリーサポートセンターがあり、上の階には市の出先機関や図書館もあり、妊娠中から18歳の子どもまで切れ目のない子育てサポートの体制が整えられていました。もちろん、交通事情や人口規模などが違いますので同じものが必要とは思いませんし、防府市にも同様の機能を持つルルサスがあり、本年1月6日にはこども家庭センターがオープンしました。18歳までの子どもに関する相談は、こども家庭センターで全てできるようになりました。また1歳児健診の無償化やこども誰でも通園制度拡充など、子育てしやすい環境が確実に整ってきています。子どもの健やかな成長のために多くの施策をしてくださっている執行部の皆様に感謝いたします。あとは長雨の日や猛暑でも体を動かせるような、またわくわくするような遊び場が屋内や屋根のある場所につくれないでしょうか。御所見をお願いいたします。

○議長（安村 政治君） ただいまの質問に対する答弁を求めます。市長。

〔市長 池田 豊君 登壇〕

○市長（池田 豊君） 生野議員の子どもの遊び場についての2点の御質問にお答えいたします。

私は、子どもが健やかに成長するためには、元気に遊ぶことが何より重要と考え、防災、カーボンニュートラル、インクルーシブの観点、そして、何よりも安全・安心に配慮した子どもの遊び場所を整備してまいりました。具体的には、市内外から多くの子どもが訪れるメバル公園には大型遊具を設置し、また身近な遊び場として子どもたちだけで遊びに行くことができるよう全小学校区の広場等には木製のインクルーシブ遊具を整備、さらに新年度には全ての小学校にインクルーシブ遊具を設置することとしております。

まず猛暑対策として遊具に日よけをつくったり、ベンチに屋根をつけたりできないかとお尋ねでございます。熱中症対策が求められる中、アラートが発生された場合には、自宅にいてほしいわけでございますけれども、メバル公園では付き添われる保護者のためにもメバルの森の木陰を活用し、休憩施設を整備したほか、あずまやにミストシャワーを設置しており、他の児童遊園などにおいても、高木を利用して木陰をつくるように努めているところでございます。また、新年度に整備いたします、こども家庭センターの東側広場にはインクルーシブ遊具のほかに、日よけ対策としてあずまやを設置することとしております。これからも子どもたちの安全のために必要な猛暑対策は講じていきたいと考えてお

ります。

次に、屋内あるいは雨や日差しを防げるような遊び場をつくれないうちのお尋ねでございます。議員御案内のとおりルルサス防府には親子ふれあい広場や図書館の親子読書コーナー、そして文化センターもあり隣接するアスピラートの1階にはカーボンニュートラルコーナーがあり、雨の日でも学びながら遊ぶことができます。このルルサス防府とアスピラートの一部は笑顔満開通りと命名されており、これは公募により子どもの案が採用されたものでございます。

そして鉄道高架を挟んで南側にはであいの広場や商業施設があります。このエリアがより魅力あるエリアとなるよう、今年度鉄道高架下にみずかぜ広場を整備しました。新年度にはさらに魅力が向上するようみずかぜ広場の整備等を進めることとしております。こうしたことによりまして笑顔満開通りのエリアを議員御提案のような多くの子どもたちを楽しんでもらえるエリアにしていきたいと考えております。これからも、ほうふっ子の笑顔が笑顔満開通りから町中に広がるようしっかりと取り組んでいきたいと考えております。

以上御答弁申し上げます。よろしくお願ひいたします。

○議長（安村 政治君） 15番、生野議員。

○15番（生野 美輪君） 前向きな御答弁をありがとうございました。私は防府市の屋外の遊び場は大変充実していると思っております。市外からたくさん訪れるメバル公園も熱中症対策として、あずまやのミストシャワーなど、大変熱中症対策にも取り組んでいただいていると思っております。また昨年リニューアルした競輪場など多くの家族の方に喜ばれております。

公明党としては今までインクルーシブ遊具の設置やカーボンニュートラルの取組として、県内産木材を使った大型遊具を要望してまいりました。全小学校に配置される予定のインクルーシブ遊具や大平山山頂に予定される大型遊具も多くの方々に大変喜ばれると思っております。本来であればお子さんは外で思い切り体を動かして遊ぶことができるのがとてもいいことだと思っております。しかし、雨が続く日や猛暑が続くとき、家に籠もっているのは親子共々に大変ストレスがたまるものです。今後につきましては、であいの広場を利用し、様々な笑顔、であいの広場や笑顔満開通りからお子様の笑顔が溢れる形に取り組んでいただけるということで大変期待しております。

今後も天候に左右されず、子どもが元気に遊べる場が増えることを期待いたしまして、全ての質問を終わりにいたします。ありがとうございました。

○議長（安村 政治君） 以上で、15番、生野議員の質問を終わります。

○議長（安村 政治君） 次は、20番、重田議員。

〔20番 重田 直輝君 登壇〕

○20番（重田 直輝君） 会派「市民の声」の重田直輝でございます。今回は、前回より長く質問をさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、通告に従いまして、2点の質問をさせていただきます。防府読売マラソン大会について、児童用かばん支給事業について質問をさせていただきます。

まず、1点目の防府読売マラソン大会についてです。

本大会は、去年12月1日の開催で55回を数える防府で一番のスポーツイベントと思っております。2022年の第53回大会からは、公益財団法人日本陸上競技連盟が展開する選手強化やマラソン活性化につながる取組、ジャパンマラソンチャンピオンシップシリーズの男子グレード1、女子グレード3に加盟し、日本でも有数のマラソン大会となりました。特に男子グレード1の大会は本大会のほか、東から東京マラソン、大阪マラソン、福岡国際マラソン、別府大分毎日マラソン大会の5大会しかなく、大都市で開催の大会と肩を並べる大会となり、毎年川内優輝選手をはじめとするエリートランナーの出場はもちろん、一般のランナーに関しても日常から練習を重ね、マラソン愛好家の上位20%しか達成できない、フルマラソン4時間以内の記録等を持つランナーのみ出場できる大会です。日本全国に向けて防府をPRできる契機として、池田市長も率先してPRしていらっしゃるかと思います。今後の大会運営やPRの展望について伺います。

○議長（安村 政治君） 20番、重田議員の質問に対する答弁を求めます。市長。

〔市長 池田 豊君 登壇〕

○市長（池田 豊君） 重田議員の防府読売マラソン大会についての御質問にお答えいたします。

防府読売マラソン大会は、かつての朝日国際マラソン、現在の福岡国際マラソンを目指してスタートし、市民の皆様とともに半世紀以上を途切れることなく歴史を刻んでまいりました。特に、コロナ禍においても、安全対策を講じながら大会を開催し続けたことは今日の評価につながっております。これまでの努力の積み重ねにより大会は国内屈指の競技性を誇るものへと成長し、現在では、JMCシリーズ男子グレード1、女子グレード3に認定されるまでになりました。

また、昨年は防府市スポーツ協会100周年という記念の年でもあり、これを契機に女子選手の招聘にも取り組みました。この結果3,060人のランナーが師走の防府を駆け抜け、多くのドラマが生まれました。特に女子優勝の小林選手は、その後の大阪国際女子マラソンで自己ベストを大幅に更新し、世界選手権の参加標準記録を突破、日本人トップ

の2位という快挙を成し遂げられました。防府が飛躍の舞台になったことは市民にとっても誇らしいことだと思います。

また、川内優輝選手は、早くも目標はMGC出場権獲得、相性のよい次の防府で優勝を狙うとの力強い決意を語られています。このように、防府読売マラソン大会は、トップアスリートにとって勝負の舞台であり、一般ランナーにとっては一流ランナーと一緒に舞台に立てる憧れの大会です。毎年、多くの団体、事業所の皆様が大会直前に道路等の清掃活動に御尽力いただいております。先日も感謝状を贈呈させていただきましたが、この特別な大会を私たちは市民の皆様のおかげで今日まで盛り上げてくることができました。さて、議員お訪ねの今後の大会運営とPRについてでございます。かつて伊藤国光選手や高岡寿成選手など、トップランナーが活躍した鐘紡陸上競技部が本拠地とした歴史を持ち、議員もお示しありましたけれども、G1のマラソンレースを10万都市として開催する本市は、マラソンのまち防府として、川内優輝選手の14回連続出場によって高い話題性で注目されています。マスコミ報道を通じて全国に発信されています。こうしたことを追い風として、関係者や市民の皆様とともに、1年1年積み上げて成長し、毎年の大会を記憶に残るものとしてさらに盛り上げてまいります。

そして、参加された全国のランナーの皆様には、いわゆるふるさと大使として防府を全国にPRしてもらいたいという思いを込めて、防府の観光地を印刷したマラソン名刺を配布いたしております。こうした防府独自の取組を展開することで全国から集うランナーの皆様によって防府の魅力を発信する好循環を生み出し、マラソンのまちをさらに発信してまいります。

本年12月7日に号砲を迎える第56回大会は、ロスへの扉を開く大会となります。全国からの注目に応えるよう、市民の皆様と力を合わせ一緒になって、盛り上げてまいりたいと考えております。

継続は力なり、先人から受け継いだ伝統を守り、育て、防府の魅力を全国へと発信してまいります。

以上、御答弁申し上げます。よろしく願いいたします。

○議長（安村 政治君） 20番、重田議員。

○20番（重田 直輝君） 御答弁ありがとうございます。マラソンのまち防府として、市が一体となって盛り上げていくという答弁でございました。今後も日本陸上競技連盟や、山口陸上競技協会、防府市陸上競技協会などの陸上競技団体、読売新聞西部本社、KRY山口放送などのメディアと一体となって、引き続き盛り上げていただければと思います。

さて、今後も続いていく防府読売マラソンの今後の運営や改善点について、ランナー、

大会参加者であったり関係者へ、アンケートや聞き取りなど行い、改善点を探っていくこと、把握していくことが重要かと存じますが、アンケート等の実施状況についてお尋ねをいたします。

○議長（安村 政治君） 文化スポーツ観光交流部長。

○文化スポーツ観光交流部長（瀬川 博巳君） 御質問にお答えいたします。

大会参加者へのアンケートにつきましては、ウェブサイトによるものに加えまして、大会事務局において直接御意見等をお伺いしております。

以上でございます。

○議長（安村 政治君） 20番、重田議員。

○20番（重田 直輝君） 聞き取りを行っていただいているようでありがとうございます。1点参考になるものがございまして、本大会含め多くのマラソン大会のエントリーができるランネットというサイトがあるのですが、そちらを運営する株式会社アールビーズが運営する中に大会レポという参加者が大会や運営に関して評価の書き込みができる掲示板がございます。大会をよくしたいと積極的に御意見をいただいておりますので、第55回大会で数の多かったものを3点御紹介いたします。

1点目は、スタート地点の並び順が崩れていた。

2点目は、給水所の給水作業が間に合っていなかった。

3点目は、いわゆる参加賞の内容を考えてほしいというものでございました。

1点目は、スタート地点の並びはランナーの持ちタイム順に割り振られたビブスのナンバーでエリアを区切り、整列するものについてでございますが、スタート前でもランナーの方は少しでも前に前に行きたい思いがございまして、ぎりぎりまで役員を配置しエリアを区切る必要があったのではないかとこのように考えております。

2点目は給水所の運営について、おおよそ5キロごとに設置される給水所ですが、今大会は気温も高くなったこともあり、コップや水、スポーツドリンクの設置が間に合っておらず、給水ができないランナーも出たというふうに聞いております。この2点に関しては様々な要因はございますが、人員不足により発生してしまったのではないかと思います。コロナ禍以降、先ほど御答弁の中にもありましたが、企業や団体のボランティア、学生や一般のボランティアを募集されておりますが、より市内ではなく市外を含めたスポーツのする、見る、支えるの、支えるボランティアの募集を広く行う必要があると考えております。

また、当日はほとんどの市職員が大会運営に従事しております。運営の人員を確保するという観点から、同じ主催者として山口県にも、コースの大半を占める県道の維持管理の

みならず、全国に誇れる山口県のイベントとしても、池田市長の県との太いパイプを生かし、県職員の運営への参加を呼びかけていただけないでしょうか。御答弁よろしく願いいたします。

○議長（安村 政治君） 文化スポーツ観光交流部長。

○文化スポーツ観光交流部長（瀬川 博巳君） 御答弁申し上げます。

55回大会で新たに組みました事前整列につきましては、ナンバー表示のプラカードを早めに下げてしまうといったこともございまして、案内に分かりづらさがございました。また当日は昼間の気温が17度になるなど、想定以上に気温が高くなり、ランナー1人当たりの給水が増えたことで、給水作業に乱れが生じたところでございます。今後改善を進め、より円滑な大会運営を行ってまいりたいと思います。

運営のボランティアにつきましては、県職員を含め市内外から個人、団体など様々な立場の方にボランティアを御協力いただいております。円滑な大会運営に向け、引き続き地域、業種を超えて幅広く御協力を呼びかけてまいります。

なお、県のほうには、選手が安心してレースを行っていただけるよう、コースの維持管理ですとか、当日の警備業務もお願いしているところでございます。

以上、御答弁申し上げます。

○議長（安村 政治君） 20番、重田議員。

○20番（重田 直輝君） ありがとうございます。引き続き円滑な運営に心がけていただけたらと思います。県のほうのプッシュしていただきたいなという話でいきますと、ほかの大会との兼ね合いもあろうかと思うんですけれども、1か月前、下関海峡マラソン、こちら毎年11月に開催されており、なぜ防府だけと言われる部分もあるかもしれませんが、山口県下関海峡マラソンは後援で、防府は主催者の一員として県はやっておられます。観光やイベントは一律PRではなく、プッシュする場所やイベントがあるものかと思いません。ぜひ日本で有数の大会になりましたので、一番力を入れていただくという意味でも、県にも物的支援ももちろんですが、人的支援も求めていただきたいというふうに思います。事故なく安全・安心な、特に男子グレード1大会にふさわしい運営には、御答弁ありましたように、人手が必要となります。他の大会ですが、競技中のランナーと大会関係者や関係車両が接触する事故や、コースの誘導ミスによるタイムロスも起きております。運営を少人数で行えば、そのような事故も行き届かない部分も出てきてしまいます。事故がないのはもちろん、エリートランナーにとっては、例えば第55回大会では、2025年に東京で開催の世界陸上の日本代表選手の選考競技会にもなっており、1秒が選手のキャリアを左右するといっても過言ではありません。

また、何か不手際があれば全国ニュースになるほど、G1大会というのは注目度が高くなっております。また、一般ランナーにとっても安全・安心に気持ちよく走っていただき、一人でも多くのランナーが一番好きな大会は防府読売となるよう、おもてなしを進めていただきたいと思います。加えて、大会運営するのに不可欠な審判員の確保、また、防府商工会議所の連携により、積極的に企業をはじめ、一般ボランティアを含め、ボランティアの掘り起こしも行っていただくようお願い申し上げます。

最後に3点目の参加賞の内容についてでございます。

先ほど、市長の答弁でもございました、名刺のことでございますが、一昨年の第54回大会から配布されているようでございます。こちらは、御答弁ありましたとおり、表にランナー一人ひとりのお名前、ビブスナンバー、裏には防府市の観光地が印字され、各ランナーに100枚ずつ配布をされているようでございます。この名刺について、正直数が多いとか、使い方が曖昧、費用を他のものに変えてほしいという意見がございまして、この名刺の配布した、改めまして経緯と目的、また作成費用が幾らかかっているのかについてお尋ねをいたします。

○議長（安村 政治君） 文化スポーツ観光交流部長。

○文化スポーツ観光交流部長（瀬川 博巳君） 御答弁申し上げます。

市内観光地PRと出場記念を一つにした名刺を、令和5年の第54回大会から配布しております。この名刺はフルマラソン4時間以内の証であり、全国のランナーに1年を通じて防府をPRしていただいております。こうして防府の知名度が高まることによって、ふるさと納税にもつながっております。第55回大会における作成費用につきましては、1人当たり約480円となっております。

以上でございます。

○議長（安村 政治君） 20番、重田議員。

○20番（重田 直輝君） 御回答ありがとうございます。引き続きこういったPRをしていただける契機として使っていただけるように、皆様に御説明をいただければというふうに思います。一人頭480円ということなのですが、約3,500名のランナー、これだけ作るとたくさんの経費になろうかと思えます。より大会に必要な費用に充てることもできようかと思えます。例えば、要望の多いトイレの増設、シャトルバスの増便にも充てることが可能かと思えます。同じ防府のPRということでしたら、読売新聞西部本社、KRY山口放送と大きなメディアさんが一緒に運営に携わっていただいております。餅は餅屋、御意見をお聞きになっていただき、PRを有効に行っていただけたらと存じます。

参加賞と言えるか分かりませんが、コロナ禍以降、大会の受付を簡素化するため、ビブ

スや記録用のリグなど大会参加に必要なものを事前にランナーに送付する際、市内観光地の招待券が同封されているようでございます。この招待券についてお尋ねいたしますが、いつから始まって、年ごとに施設の場所を教えていただいた上で、この招待券は施設からの無償提供か、購入したものなのか、購入であれば招待券による施設の入場者数と大会実行委員会が施設にお支払いした金額、1人当たりの単価について教えてください。送付総数も併せて御教授いただければと思います。よろしく願いいたします。

○議長（安村 政治君） 文化スポーツ観光交流部長。

○文化スポーツ観光交流部長（瀬川 博巳君） 御質問にお答えいたします。

議員お示しの招待券につきましては、大会を通じた観光誘客を目的に、市内観光施設の御協力のもと、令和4年の第53回大会から参加者全員にお配りしております。この招待券につきましては、観光誘客宣伝など様々な効果を目的に、施設側の御判断により提供されておりますので、費用等詳細につきましては控えさせていただきたいと思っております。

以上、御答弁申し上げます。

○議長（安村 政治君） 20番、重田議員。

○20番（重田 直輝君） 御答弁ありがとうございます。市内にはたくさんいろんな訪れるべき観光地がございまして、例えばコース上にあります三田尻塩田記念公園、防府の歴史と伝統、産業を感じられる施設でもございます。マラソンコース上だけではなく、順繰りにいろんなところを回っていただきたいというふうに思いますので、引き続き市内、せっかく防府を訪れていただいていますので、たくさんの防府を知っていただいて、また全国にPRする契機にさせていただきたいというふうに存じます。

結びに向かいますが、本大会は経済波及効果も計り知れず、全国に向けて防府をPRすることができますが、大会運営はランナーからの参加費と当初予算のほか、3月補正で増額補正したように、市からの多額の補助金も投入されております。大会当日には大規模な交通規制も行われ、身動きが取りにくい地域にお住まいの方もいらっしゃいます。賛否含め様々な思いを持たれるイベントです。大会がより実りあるものになりますよう、効果的な運営をしていただくよう要望し、以上で防府読売マラソン大会に関する項目を終わりにさせていただきます。

では、引き続き、児童用かばん支給事業についてでございます。

防府市では、教育環境の整備、保護者の経済的負担軽減を目的に、令和5年度から小学校へ入学する全ての新1年生に、防府市独自の安全・安心な児童用かばんを贈る事業を行っております。このたびの市議会議員選挙戦においても、私は児童用かばんの見直しを掲げ、現物での支給ではなく、現金やクーポンで保護者の経済的負担を軽減するとともに、

保護者の方がお子さんとお話し、各家庭で必要なものをそろえていただくことが何よりも子育て支援になると訴えさせていただきました。街宣中にも多くの方から共感いただき、ぜひ見直してほしい、市民の声を届けてほしいと、御意見を多数いただきました。来年度も1,760万円の予算案が示されております。事業目的である経済的負担軽減を目指すのであれば、現金もしくはクーポン券での支給、ランドセルなどの通学用物品や学用品の購入補助も可能となります。安全・安心、身体的な負担軽減をうたっても子どもの使用率が低い、それでは子どもの安全・安心に寄与しません。12月議会でも、市ではアンケートを実施する意向はないとのことでしたので、今年1月から2月までの間、独自で私のほうでアンケートを実施させていただきました。方式はウェブ上で質問に答えていく形で、SNS、インスタグラムやユーチューブで告知、また紙面にQRを印刷したチラシを作成し、回答をお願いしました。回答件数は167件集まっております。件数は市が実施するものからしたら少ないかもしれませんが、主なものをピックアップして御報告申し上げます。

アンケートは大きく分けて3つ。1つ、子どもの満足度。2つ、保護者の方に対してですが、使用の実態調査、満足度。3つ目に、保護者が今後どのようにしてほしいかを分けております。

まず、子どもの満足度ですが、非常に満足7.2%、やや満足8.4%、普通16.2%、やや不満21%、非常に不満26.3%、保護者の方が子どもに聞いていただいていますので、分からないという回答が21%でした。

次に、子どもが満足している点は、デザイン10.2%、色6%、サイズ8.4%、軽さ34.7%、耐久性5.4%、満足していない28.1%、分からないと答えたのが27.5%でした。

次に、保護者に対する質問です。お子様はランドセルを持っているかとの問いには、持っているが85.6%で大半を占めております。まだ未就学時の家庭からも回答をいただいております、9割以上の家庭はランドセルを持っている、もしくは持つ予定であることが分かりました。

次に、この児童用かばんの支給の有無でランドセルを購入するかどうかの判断が変わるかとの問いには、76.2%は、いずれにせよランドセルを購入すると答え、一方でかばんがもらえるならランドセルを購入しないと答えた方は9.1%でした。

次に、かばんの使用頻度ですが、ほぼ毎日使用しているが15.6%、ほとんど使用していないが54.5%でした。

次に、どのようなタイミングで使用しているかとの問いですが、通学時が23.4%、

遠足や課外授業のとき、留守家庭児童学級に通う時が12%、天候不良の時や高温の時が8.4%、学校から指示、推奨のあった日が26.3%、使っていないが45.5%でした。

次に、保護者がかばんにどれくらい満足しているかとの問いですが、非常に満足7.8%、やや満足8.4%、普通14.4%、やや不満25.1%、非常に不満44.3%、次に、どの点に満足しているかとの問いですが、デザイン12%、サイズ11.4%、軽さ37.1%、耐久性9.6%、満足していないが50.9%、次に、改善が必要な点として、デザイン33.5%、サイズ3.6%、軽さ3.6%、耐久性6.6%、配布のタイミングが6%、特に改善が必要な点はなしが4.8%、現物で支給でなく、別のものや支援に変更が79.6%でした。

かばんの代わりに希望する支援に対する回答では、入学準備金の支給が74.9%、学用品、文房具や体操服、制服などの無償配布が67.7%、子どもの交通安全指導の強化が9%、入学前オリエンテーションの開催が1.8%、かばんの支給を継続が12%でございました。

データの読み上げでお時間をいただきましたが、子どもの半数は軽さがよいところと答えています。しかし、同時に児童と保護者とも満足度は低いと言わざるを得ず、利用率の低さは満足度に比例しているように思います。かばんの軽さや容量も一定の評価を受けているものの、ほとんどの家庭でランドセルを購入しており、重複して持っている家庭がほとんどです。ランドセルは多様な色やデザインのものがあり、それを子どもたちが選択し、また、親や祖父母が子どもの成長や未来への希望を願い購入している実情があります。家庭で機能面やデザイン等から率先して使用される児童用かばんであればよいですが、多くの家庭でランドセルはいずれにせよ購入するのに、かばんをどう扱えばよいのかと困惑する声が多いのが現状です。このままの形で事業を継続するのであれば、防府市として中学生のかばんのように、公立小学校に通う児童は全てこの児童用かばんを使用するようにと校則にすることでしか保護者の困惑は解消し得ないと思います。そうすれば、高価なランドセルを購入する必要もなくなり、そのランドセルの購入費用をその他必要な費用に充てることができますが、多様性の重んじられるこの昨今、新たに校則を設けることは現実的ではないと考えております。事業自体は喜ばれている方もいらっしゃいますが、それでもせめて色が選べたらという声もあり、事業をどう展開していくにせよ見直しが求められております。

また、自由記載欄でも様々な意見をいただきました。多くあった内容は、制服や学用品など全員が購入するものに対する補助の創設でありましたが、一方で、例えば兄弟のお下

がりを使うなど、全員が使用する制服や体操着であっても、新たに購入する必要がないなど、各家庭により事情が異なることから、現物というより、各家庭で必要に応じ自由なものをそろえることのできる現金やクーポンによる支援制度が必要とされることが分かりました。

このアンケートの結果に対する執行部の御所見をお尋ねいたします。また、令和6年12月に、改めて向こう3年のプロポーザル入札が行われましたが、募集要領の決定までを含め、再度プロポーザル入札を行った経緯を教えてください。

○議長（安村 政治君） ただいまの質問に対する答弁を求めます。教育長。

〔教育長 江山 稔君 登壇〕

○教育長（江山 稔君） 重田議員の児童用かばん支給事業についての御質問にお答えします。

新入生児童用かばん支給事業は、子育て世代への切れ目ない支援の取組である、本市独自の子ども・子育て支援、ほうふっ子応援パッケージの一環として、令和5年度の新入学児童から全員に平等にかばんをお渡ししている事業です。来年度の新入学児童にも、既に就学時健診の際にかばんをお渡ししたところであり、来月の小学校のスタートが安心して迎えられるようにしているところです。

まず、アンケートの結果に対する所見についてお答えします。

これまでも御答弁しておりますように、新入学児童用かばん支給事業は、令和3年度の防府市母親クラブ連絡協議会からの要望や、防府市子ども・子育て会議での意見を踏まえ、ほうふっ子応援パッケージの一環として着手しました。翌年度には、子どもたちの身体的負担を軽減し、安全・安心なかばんの作製に向けて、幼稚園や保育園、小学校や保護者代表など、日頃から子どもたちに関わってくださっている方々から、様々な御意見をいただきました。これらの御意見をもとに、仕様書を作成し、プロポーザルを実施し、安全・安心でコンパクトをコンセプトとした、防府市オリジナルのかばんを作製したところです。なお、色につきましては、作製時、小学校に在籍していた全児童にアンケートを実施し、その意見を反映しております。児童用かばんを使っている子どもたちからは、軽くて楽ちん、タブレットが入れやすい、マグネットで留めやすい、簡単に開けられると聞いております。保護者の皆様からも、かばんが軽くて使いやすい、夏場の登下校や梅雨時期はメッシュ生地ですごく涼しく過ごすことができるなど機能面でも評価をいただいております。

また、今年度、令和8年度から3年間のかばん支給事業に当たっても、日頃から子どもたちに関わってくださっている方々から、様々な御意見をいただき、プロポーザルを再度実施したところです。こうした中、議員が独自に実施され、お示しいただいたアンケート

の結果につきましては、様々な御意見があり、本事業に対して関心を持っていただいていると受け止めております。教育委員会といたしましては、かばんのよさや使いやすさが、使用している子どもたちやその保護者に徐々に広がっているところであり、引き続きかばんのよさを周知してまいります。

次に、再度プロポーザルによる入札を行った経緯、募集要領を決定した経緯についてお答えします。

新入学児童用かばん支給事業が始まり3年がたつことから、新たな素材やアイデア、技術の進歩による見直しと安定的な品質水準の確保に向け、複数年にわたる契約を結ぶため、再度プロポーザルを実施することにいたしました。募集要領や仕様書等の作成に当たっては、幅広く意見を求めるため、小学校長会、PTA連合会、幼稚園連盟、保育協会、学識経験者などの方々を委員とした審査委員会を開催し、募集要領や仕様書等を決定いたしました。

その後、これらをもとにプロポーザルを実施後、優先候補者を決定し、このたびの議会に提出した議案第13号財産の取得についてにおいて、令和8年度から令和10年度までに市内の小学校に入学する児童に支給するかばんの購入の御承認をいただいたところでございます。同様の事業は、他県においても広がってきており、注目しているところでございます。教育委員会といたしましては、児童用かばんをしっかりとPRし、子どもたちやその保護者によさを知ってもらい、これからも入学する子どもたちやその保護者が安心して入学を迎えられるよう、本事業を進めてまいります。

以上、御答弁申し上げます。

○議長（安村 政治君） 20番、重田議員。

○20番（重田 直輝君） 御答弁ありがとうございます。引き続き、普及啓発に努めるということでございます。私も選挙戦で、この事業を見直しをするということを公約に掲げておりますので、どうしても私のアンケートに答えてくださる方というのは、批判的な御意見もやはり多いのかなというふうには思っております。しかしながら、全児童に配布されるからこそ、声の大きさだけでなく、広く喜ばれるのは何なのか、数量的に多数派というのは何なのかというのが重要かと思っております。先ほど触れました、かばんの校則化について、これにより負担が軽減されるのは、特にランドセルを購入するのが大きな負担になる経済状況の家庭であります。市には就学援助事業がございます。この事業は、世帯構成により異なる所得要件等を満たす世帯が申請により支給を受けられるものでありますが、そのメニューの中に、新入学用品と学用品費、通学用品費の2項目が含まれております。そのような事業があることから、既に一定の家庭には経済的支援がなされてお

ります。対象件数は、先日前お伺いしたところ、令和5年度の新小学1年生、941名のうち135名、割合として約14.3%、つまり約85%の方はこのような支援はないわけです。また、基準額からしても非常に支援の対象となるハードルは高いと考えております。ランドセルの価格高騰化、様々なものの値段も上がり、日々一生懸命に子育てに仕事に、もしかしたら親の介護がある方もいらっしゃるかもしれない、少しでも少子化に対抗するため、子育てに少しでも負担を減らす、なくす、その一助になればとスタートした事業かと思えます。啓発し普及に努めるとおっしゃいますが、ここまで使用率も上がらず、個人の志向をこちらに向けていくのは困難に思えます。使われないでは子どもの安全にも、保護者の経済的負担軽減にも寄与しないのです。そこで改めて御提案いたしますが、各家庭の状況に合わせて支給の形を選べる形、つまりかばんの受取り、もしくは給付金やクーポンを配布し、各家庭で必要なものに当ててもらおうという選択式にしてはいかがかと提言いたしますが、いかがでしょうか。御答弁よろしく願いいたします。

○議長（安村 政治君） 教育部長。

○教育部長（高橋 光男君） 御質問にお答えいたします。

本事業は、全ての子どもたちに安全・安心なかばんを平等に配布することを目的とする事業でございますので、選択式は考えておりません。

以上でございます。

○議長（安村 政治君） 20番、重田議員。

○20番（重田 直輝君） 選択式は難しいということで、御答弁をいただきました。

1つ選択式にしている自治体というのを御紹介させていただきます。山梨県韮崎市でも同様の事業、こちらは、配布されるかばんはアウトドアブランドモンベルの製作のものでございますが、かばんと給付金の選択肢になっておるようでございます。また、防府市の場合は、後から欲しくなっても販売窓口が整備されていますので、やっぱり欲しくなったということにも対応できようかと思えます。かなり多くの方から選ばせてほしいと御意見いただいておりますので、何とぞ御検討をよろしく願いいたします。恐らく一度スタートした事業ですので、簡単に中止や変更の決断はしにくいと思えますが、これだけ多くの声があり、市民の声を聞いて事業を変更することは評価に値することだと思えます。見直ししてほしい声が多数あるのは御認識いただいたと思えます。今後もこのようなアンケート等を実施し、提供してまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

続くプロポーザル入札の項目についてでございます。このプロポーザル入札というのは、ある程度自由度をもって民間事業者からの提案を受けるものと認識しております。今回、かばんの色はベージュ色という要領でございました。確かに決定過程として、小学生に

3色のアンケートを取り、1色で統一をされているものですが、さきにアンケートの結果にも表れているように、特に色を含むデザインは市民から見直してほしいという声が多く、また選ばせてほしい、改善が必要な部分でございます。選考委員会によりプロポーザル入札の要領が定められたということでしたが、保護者や子どもの意見を取り入れるためにも、選考委員会に参加されている方に保護者や当事者に参加していただいたり、それこそアンケートの結果をプロポーザルの点数に反映することも必要かと思いますが、このような手法を取り入れられる意向はございますでしょうか。答弁よろしく願いいたします。

○議長（安村 政治君） 教育部長。

○教育部長（高橋 光男君） 御質問にお答えいたします。

プロポーザルの審査委員会につきましては、保護者の代表である小学校PTA連合会をはじめ、小学校長会、幼稚園連盟、保育協会などの子どもたちに関わりの深い団体から推薦のあった方を委員とし、審査委員会を組織しております。このような様々な団体から幅広く意見をお聞きし、実施をしておるところでございます。

以上でございます。

○議長（安村 政治君） 20番、重田議員。

○20番（重田 直輝君） 御答弁ありがとうございます。各団体の代表者の方が、保護者であったり児童の声を吸い上げていただいて、届けていただいているということだと思います。しかしながら、全てが全てそうではないということもあろうかと思っております。ここからアンケートを取っていただくということも必要じゃないかというふうに考えております。

最後に、結びに向かいますが、市民の声を反映するためには、何よりも意見を聞くことがスタートです。一つの手段としてのアンケートと考えております。あらゆる場面で、例えば地域部活動移行に関するアンケートなども、教育委員会でも市でも活用されていると思います。今回収集したデータをぜひ活用していただきまして、未来ある子どもを育むため、透明性のある、効果的で求められる事業展開をしていただきますようお願い申し上げます。

市の財政規模からして、年間1,760万円というのは、もしかしたら見る人からしたら僅かかもしれません。しかしながら、もっと大切なことを決める場面でも、市民の声を反映しないまま事業を開始、継続する姿勢だと問題があろうかと思っておりますので、賛否があるようなものは、全員が納得できるようなことはないかもしれませんが、積極的に聞き取りをしていただき、この支給事業については、また折を見て定期的に状況を伺ってまいり

たいと思います。

以上で、私の全ての質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（安村 政治君） 以上で、20番、重田議員の質問を終わります。

ここで昼食のため午後1時10分まで休憩いたします。

午後0時05分 休憩

午後1時10分 開議

○副議長（藤村こずえ君） それでは、休憩を閉じて会議を再開いたします。

議長が所用のため、副議長の私が代わって議事の進行をさせていただきます。

午前中に引き続き一般質問を続行いたします。

次は、19番、森重議員。

〔19番 森重 豊君 登壇〕

○19番（森重 豊君） すいません。私のために皆さんお集まりいただきました。本日最後の質問となります「無所属の会」の森重豊でございます。よろしく申し上げます。それでは、通告に従いまして質問に入ります。

初めに、質問事項1、防犯灯の設置についてお尋ねいたします。

先般、地域クラブ活動への移行について、小野地域の皆さんにお話をした際に、他地区への自転車での往復時についてのお尋ねがございました。自転車を利用する場合、行くときは明るい時間帯ですが、帰りは他地区からの距離を考えると、おおむね暗い時間帯となります。小野地区内であれば知った道で民家の明かりや民家のない危ないと思われる場所についてはおおむね街灯が設置されておりますことから安心できます。しかしながら校区外へ行くと、少しばかり様子は異なります。

今から30年前の話になりますが、市内への自転車での通行は、小野から行く場合、佐波川左岸の県道は道幅が狭く、また交通の量も多く危険なことから、並行しております交通車両のほとんどない市道を高校の生徒が通学路として利用しておりました。その市道と県道の間には高い竹や木があり暗くなると車のライトも遮られて市道は闇夜となります。そのような状況の中で、その当時には、怪しい人間から、学生たちが追いかける話が幾つもございました。その状況に危機感を抱いた同じくして通学する親たちで対応する協議とすることとなりました。協議の結果、当分の対応は離合が困難な道幅の狭く通常は通行はしていない市道ですけど、関係者のみんなで市内への往復時にはできる限り昼夜を問わずその道を車で通行するということとしました。また、防犯灯の設置についてのルールは当時は承知していなかったこともあり、まず警察に、その後市に問合せたところ、自治

会での設置と分かりました。しかしながら、その箇所は自分たちの居住していない他の自治会の区域であり、その自治会の通行者がいないことから、その自治会では街灯の設置をする必要は特にございませんでした。

その後、幾度も親たちで協議を持ちまして、最終的に関係者での善意の設置ということを決め参加者を募ったところ、多くの親から申し出があり、善意の電柱もいただき、設置することとなりました。しかし、当時の小野連合自治会長から小野の子どもの安全は小野全体で確保する。勝手なことをするなとありがたいお叱りをいただき、その後早急に防犯灯が設置されました。小野自治会の区域外であっても現在も小野地区で電気料等の対応をしていることを思い出しました。自分が通行していないし関係者でないこともあり、当時の親たちの責任範囲は既に終わっております。また、通学路は市が対応していると私は勝手に思っておりましたことから、完全に忘れておりました。相談を受けた後に現地を確認したところ、現在も街灯はあります。しかし、通行してみますと、当時に比べ竹や高木が長い距離に多く茂っておりまして。暗闇が以前よりも長く続いていることが分かりました。また、枝が街灯を囲むように茂っており、街灯の役目が果たされていない箇所もございました。

このような状態では生徒の安全な通行は確保できません。その後、市担当課に問合せたところ、防府市地域安心防犯灯設置要綱が令和4年4月に制定され、市で対応する場所は、小学校、中学校に関する箇所とのことでありましたので、ひとまずは安心いたしました。この概要が地域安心防犯灯を設置しようとする場所からおおむね50メートル以内に防犯灯、その他の道路照明及び住居がなく防犯上必要な場所等々の記載があり、最後に小学校または中学校の通学路で必要と認められることとの記載でございます。

現在の小野地域の住民は、1月末で2,825人で10年前の平成27年には3,520人でした。695人減少しております。毎年70人程度減少している状況です。近年の小学校への入学児童は1桁台と2年続いておりますことを考えますと、近い将来には自転車での通学生徒は1人に近い人数となることが予想され、通学生徒が少なくなることで特に将来が心配されます。1人でも安全対策は必要と考えていますし、安心より安全であればということはありません。先般の7年度予算説明の中で、令和8年度からマイクロバス3台の運行が記載されておりました。大変うれしいことで安全な通学を考えていただいているということで安心しました。

全ての中学生が常時利用できれば全く心配する必要はございません。しかしながら、今後、地域クラブ活動移行に伴い、子どもが活動場所へ自転車で移動することがあると思いますが、移動場所への道筋において、民家等もなく安全が確保できない場所に対して防犯

灯が必要と考えますがいかがでしょうか、お尋ねいたします。

○副議長（藤村こずえ君） 19番、森重議員の質問に対する答弁を求めます。市長。

〔市長 池田 豊君 登壇〕

○市長（池田 豊君） 森重議員の防犯等の設置についての御質問にお答えいたします。

私は、子どもを守る安全・安心対策の推進が重要であると考えており、総合計画の重点プロジェクトに掲げ、様々な取組を進めてまいりました。具体的には通園・通学路などへのキッズゾーン、スクールゾーンの整備、横断歩道のカラー化、登下校時の子どもを見守る、みまもり隊の活動への支援等を行ってまいりました。また、令和4年度からは、小・中学校の通学路で自治会では設置が困難な場所等を対象として市による防犯灯の設置を開始しました。現在向島小学校、右田中学校、小野中学校などの通学路に子どもが安全・安心に登下校できるよう26基の防犯灯を設置しております。そうした中、議員お尋ねの子どもの自転車移動に伴う防犯灯の設置についてです。

地域クラブにつきましては、令和7年度末までに全中学校の部活動を地域クラブ活動に移行することを目指しております。これに伴い、例えばサッカーや野球をしたい小野中学校の生徒は、佐波中学校や桑山中学校などの会場に学校区を越えて移動することとなります。そうした中、学校区を越えて自転車で移動することは危険ではないかという声がありました。そのため、私は安全・安心を第一に考え、地域クラブに参加する全ての子どもを対象に、公共交通機関を使って移動する場合は、費用を全額公費負担することや、当初予算におきまして債務負担行為を設定させていただいておりますけれども、マイクロバスを購入することによって、完全移行する令和8年度からはマイクロバス3台による送迎でしっかりと支援していくこととしております。

しかしながら、参加する多くの子どもの中には自転車で移動する子どももいることが考えられます。こうした中、議員御指摘のように、自転車で移動途中で民家等もなく、防犯灯もない道を通ることも想定されます。このためマイクロバスを利用するよう、しっかりと働きかけますとともに、地域や教育委員会等と連携し、子どもたちの移動経路の把握や道路環境の確認に努め、必要な場所があれば新たに防犯灯を設置してまいります。地域クラブに移行しますけれども今後も防府の未来を担う子どもたちの安全・安心を守るため、必要な対策についてしっかりと取り組んでまいります。

以上、御答弁申し上げます。よろしくお願いたします。

○副議長（藤村こずえ君） 19番、森重議員。

○19番（森重 豊君） 御答弁ありがとうございました。地域クラブ活動に伴う通学道路については、教育委員会等と連携して、安全対策に努めるとの御答弁をいただき、ひ

とまずは安心しております。よろしくお願ひいたします。今後は、親御さんからのお問合せがありましたら、安全対策には特に努めるとの強いお言葉で返事をいただいておりますので、御安心くださいとお伝えしたいと思ひます。よろしくお願ひします。地域性もありますが、高齢化が進んでいる地域において、特に小野は高齢化が進んでおるんですけど、児童・生徒以外に高齢化等の自転車や歩行時には防犯灯の設置は特に必要と思っております。自治会での対応が困難な場所においても、通学道同様に市での対応を要望いたしまして、質問事項1の防犯灯の設置について終わります。

続きまして、質問事項2の適正な職員配置についてお尋ねいたします。

庁舎が新しくなってからは、21時以降の庁舎を外から見ることは現在ありませんが、遅くまで室内灯が点灯され、業務をこなしている様子は以前よく見ておりました。私自身も現職時には連続夜中を越して帰宅したこともございます。それは、その場独自の繁忙時や災害関係時などの緊急な問題発生時の対応であり、私の場合は決して1年を通じて続くことはございませんでした。近年は、多くの部署ではないと思ひますが、なかなか早く帰ることができない部署が存在することは伺っております。その原因は様々でしょうが、突発的に発生する事象や増加する仕事量に対し、職員の配置が追いついていないのではないかと心配しているところでございます。

また、仕事と家庭を両立するための制度も充実してきており、今後は、育児、介護などの休暇を取得する職員が増えてくるかなと想定しております。そのためにも、多くの優秀な職員の確保が今以上に必要と考えます。しかしながら、人手不足は深刻な状況で、官民間問わず採用に苦労されていると聞いており、工夫が必要ではないかと思っております。また限られた人数で効率よく業務を行うには、職員自身の能力をしっかりと高めるとともに、それを上手に発揮するような適材適所の職員配置が望まれます。まちづくりが順調に進んでおります防府市でございます。職員の皆さんの頑張りには頭が下がる思いではありますが、現在の発展の勢いを見ると、仕事量が増えることは確かと思ひます。そのような中でも、しっかりと市民サービスが求められます。心身ともに健康で働きやすい職場を維持するために、適正な職員の配置についてどのように考えているかお尋ねいたします。

○副議長（藤村こずえ君） ただいまの質問に対する答弁を求めます。総務部長。

○総務部長（白井 智浩君） 森重議員の適正な職員配置についての御質問にお答えいたします。

防府駅周辺の整備や新庁舎の開庁など、まちづくりが進む中、この流れを止めないためには、デジタル技術等を活用し、業務効率化を図りながら、業務量に応じ必要な部署に必要な職員を配置することが大切です。そのため、総務部におきまして、まちづくりの状況

や業務量の把握、各部局への業務実施体制や人員配置に関するヒアリングの実施、職員から異動希望等を聞く自己申告制度などに基づき人員配置を行っており、昨年度からは年2回の人事異動を開始し、より柔軟な対応を行っているところでございます。

また、職場において職員がその能力を発揮するには、ワーク・ライフ・バランスに配慮した心身ともに健康で働きやすい職場環境を維持することが大切です。ワーク・ライフ・バランスを推進するため、ライフステージの変化に応じた働き方の支援として未就学児養育のための勤務時間の短縮制度や、介護離職を防ぐための休暇制度の充実、さらに今年度からは男性職員の2週間以上の育児休業100%取得の取組を開始したところでございます。

そして、こういった適正な職員配置と働きやすい環境を整えるために、必要な職員については採用することとしております。人材確保は民間企業や他自治体においても大きな課題である中、本市では昨年度から10月採用を新たに開始し、民間企業等における社会人経験者など即戦力となる職員の採用を行っております。今年度からは土地利用型農業の成長に深く携わる農業分野の職員採用枠の設置、また福祉分野の専門職の採用など新たな取組も開始したところでございます。より多くの方に採用試験を受験していただけるよう、県内の高校・大学等への訪問や各種就職ガイダンス等での広報活動、学生のインターシップの受入れを積極的に行ってまいります。そして、全ての職員が心身ともに健康でやる気を持ってまちづくりができるよう、働きやすい職場づくりやモチベーションを向上させる研修等をしっかりと行ってまいります。

さらに、幅広い視野を持ち主体的に仕事に取り組めるよう、市役所を離れ、新たな知識、経験を積ませるため、先進地の視察や東京の外郭団体等への職員派遣などを行い、職員力の向上を図ってまいります。

新庁舎が完成し、またまちづくりが大きく進む中、本市の職場としての魅力も高まってきております。これを強みに今後も人材確保に努めてまいります。

以上、御答弁を申し上げます。

○副議長（藤村こずえ君） 19番、森重議員。

○19番（森重 豊君） 御答弁ありがとうございました。業務量など人員配置のヒアリングや自己申告も活用しての人事配置と働きやすい職場づくりに必要な職員を採用すると、また年2回、10月の途中採用、または農業や福祉枠などを取り入れるとのことで、必要な職員は採用するとはっきり答弁されたというふうにお聞きいたしました。大変安堵しております。

市の職員の業務は決して利益の追及をするところではございません。市民の生活のお手

伝いをするのが基本でございます。先ほども申しましたが、限られた人数で効率よく業務を行うには、職員自身の能力をしっかりと高めるとともに、それを上手に発揮できるような適材適所の職員配置をしていただきまして、市民サービスの向上に努めていただきますよう期待しまして、質問事項の2の適正職員配置について終わります。

以上で、私の質問は全て終わります。ありがとうございました。

○副議長（藤村こずえ君） 以上で、19番、森重議員の質問を終わります。

○副議長（藤村こずえ君） お諮りいたします。本日の会議はこの程度にとどめ、これにて延会することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（藤村こずえ君） 御異議ないものと認めます。よって、本日はこれにて延会することに決しました。お疲れさまでした。

午後1時30分 延会

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

令和7年3月5日

防府市議会 議長 安村政治

防府市議会副議長 藤村こずえ

防府市議会 議員 森重豊

防府市議会 議員 重田直輝